57X
27
60

博姫

宇治巻　一

哥女石ざえもん

東洋文庫

かゝる人の
そのころ世をうぢまつれる法師ども
有文
なりける
なるなどもやむごとなくあしきまでむさぼりこと
なるべきえをしるべくなりけるに世中は
そこらあれ給はけるまゝにまたうくいとか
ぞりもくれまゝしろこそなども物うしゝ
ゝろぐるまでぐまつけて世はそむきさう
けるなやけるこゝろまうしうるくさうれ
されゝるやうなるおのゝさまもそこらのゝ人民のれ
むとめるりけり表れ八まんろばさくなやこゝろのゝ
しゝとそこうこゝろ後ちなどこひこで給ふこゝこゝ
るこゝとなるれど・うこされらざりのこゝろるこ

ぐらしけうとき世のるぐさあてうとこまうとまく
毎のこうてゆうゆ幸ごろかるれみも物し給
そでこころゆまくちるれぶさうぐしくてれ
づれるうをぐさあくいうでおうくんらごまれ
と・こゆやでとさぐ元をくての給けるえんづくく
姫君のひとうてはげるひまれ海へうれを
そぐりるくけられとくどひうづき笑し給まる
こうづきそうきぐこあてれびく男まても
をどおばしるよ・なるまて海まてうるうるは
し給るぐしけ方いくひてうせあ・みがや
わきうしそばしまふうるうけて

けてうくくこぐこと海うる世るれど
こまてくく表るうへのれみる海ろろ海て
けくぐめうくはぐてくてすづくてれ
ひうくるうてけくぐする海ぐくもあるべうれ
いくけるるへぐくまひうくぐくこんはぐ恨
あるるうてけこぐまうひくワうべくこと
くるばしうてはいもうげまねしうる給
れぐこゆづるひくもるくてのうくぐめんとい
うぐくおばしるもひけくうれまれぐとの
とのかまけ海うる給海ろうのうけうう
あくまねしうけ・角言のれるくあまてなの

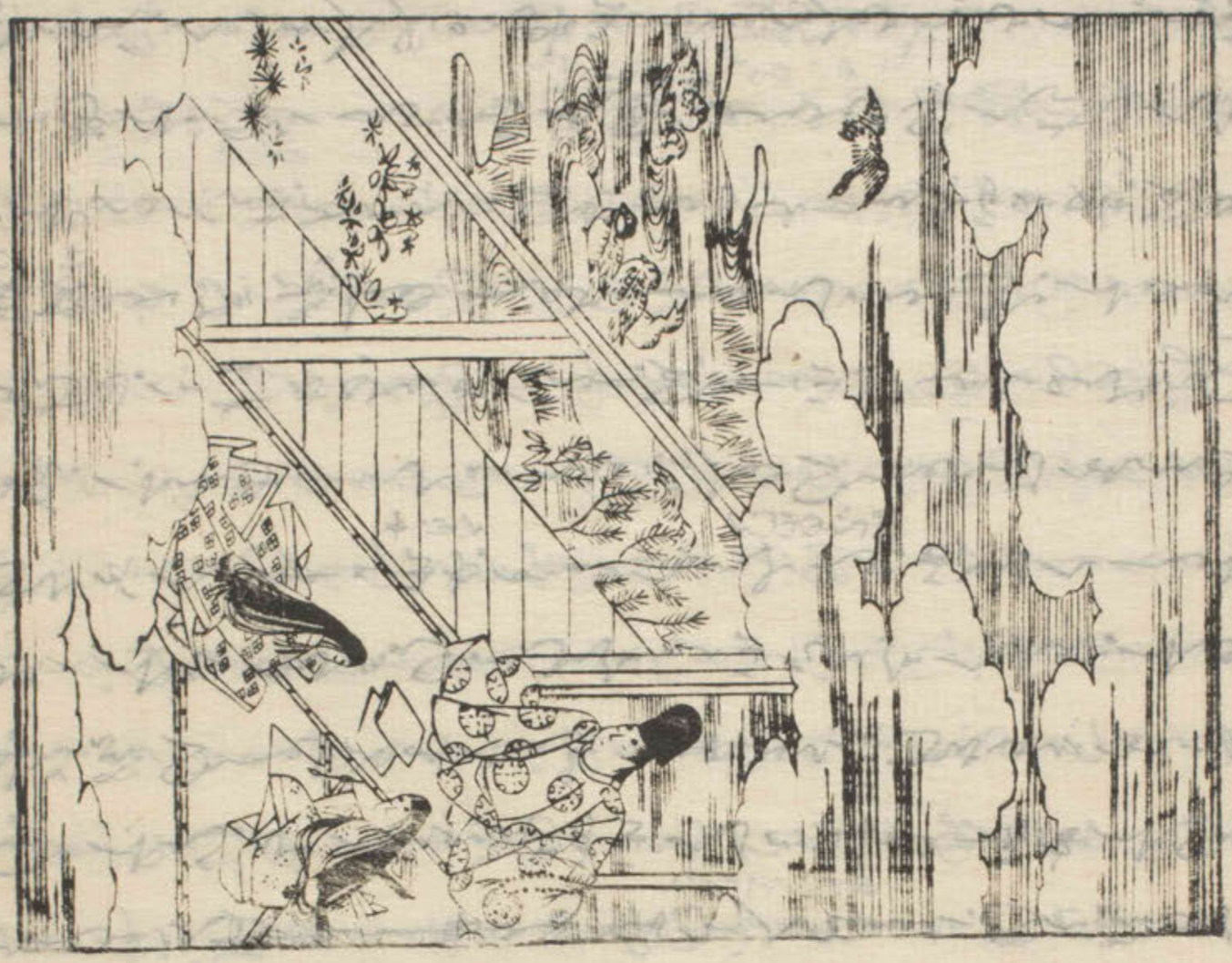
けりとてなほ[なほ]ひまれ給しこゝを[中云]
さうなる人へ[人]ぐ[ぐ]よりでゝ
ぶやうにて心よいれそもなりうひ[ひ]ぐりうれど
くぐりのうへにて何[なに]ごともあばしつぐりし[し]程
ゐぐ[ぐ]うれをいと心ぐ[ぐ]るしとひてぐ[ぐ]ひ[ひ]ぐ[中]ばば
くるこゝろにおくれおばきとぐりぐ[ぐ]一こと
たん[八]ぐ[ぐ]るこゝろにしぐ[ぐ]ろ[ろ]れ[ぐ]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ]のぜのちぐ[ぐ]ろも
つくきおりかしるれどうへ[べ]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ]ていあり
けめ[小方]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ

なをすてがたくられぐるまやぞくぐるまぶ
そすぐるひろくおもしろき交のいけふるどのあも
ぐらひしーまうてでいとらうあれまうば
ばれぐとてぐめるふけいしをぐまむのくしさ
人もあるれぐらつくろふひとをるさまるま
革のあやうまぶぐり杵(のき)のもの布えがかコ
ゆきこつれるりくまうけうあまみちのい
ろをもをまおるぐ(八山方と)ろるまうやし絡しそ
るぐえむとも毎うろれぐ(八ふ)くぐしくえびしく
ちうつひろくるる海くまる杵(ちき)仏のれぐぐうるば
ぐぐきこんとめてれるひ絡うるぼぐし

ぐきまうづふぐこひのねまちあしうぐ
心ちぐもるまぐりりちぐりとばゆるば
そちるくる世の人めているうるとのさし
月コえへて世平とばしくるれつ心ぐり仮
ひぐりまちりてのて故(こ八ふ)ものをまくしるふ
例の人ぐ海ちるろるぐ人なぐくるれまても
毎ー出絡いぐりうりまるぐ仮しもワるく
ばれるるひいえ世まぐびちるやうまのと
くていばゆべるれとありられば(ハノ四ノ人金と行)さのるや八絡
世人まちるずふれ心づひをしるて。いくくま
ぐくくるぐるまやのちまとのづる

もそろそろつぎもやとひといまどさまてゐる
れとつきぐこつぐ笑ごけとおいつこれて
ゐれど公そろそろめいれざりそれ念どのひ
まびまこにこれ恋どちをもてあそびやうく
おしまけの人びとるるちうちべんつきちど
ろろきあそびつぎるつけてもろるどへどまま
こまりはる娘恋いらうくとくふくとまりうこて
はげ恋いはどろまらうみるこ風して夫
けくこうるけこひとうけてうこ風ぐり
ぶこす恋のうらくるる日げよ池の水鳥ぢれ
こたくくつをのがぢくさえけるこ恋ぢど

つれいくるるさくくこ話しりどもづひくられ
めばうやまくくるるめて恋ぐりれとく
どもをへ学ら話くはうけるちいさされは
どるりぐくさるくる話まく話どと長る
ぐくこそれぶるりるどうけのて
ハうちすくつびうるるのりれこの
せるちとれけんころげうけりやと
めとくのびはちいとこそげるふりまる
恋るり辛ばれこるひるやとはそり話るれど
こくもてこ子毎めるて恋迷とくづこ話
れころぐへるるをくのうへどめるとこめて恋け



はれぞどもるべくうとてれ帝よみ人まちくいとらびこ
ちくつれぐげうるよ陽成院くいとらうこげうて地し
多氏表は心ぐうこういうぶ日ぼさぐん殿とうてよ
ものてけいとうこつさ
けつうぐるようのれうこ
あくきつるひめへぐさくよくもあくでいと
おうくアゆうみ桐つぐの内侍ぐぐもれ大臣少女もくとれ
めてくうぐくうきれうこのぐうもうてうう
おくきぐうれいぐえてぐゆくもえるひ治ぶ
まうて世中ますつくれ心をうてそうでは
こう結ぶんぐうさくとアゆる中よおきまう

あてよぶはうこうかのやうよふくうそれいぶるうき
世のれうこ地ぶゆうぶ八ノ母女院ノ父大臣ぶくぐのれうこうぐむうるゆ
やとうきすうぐうれどゆくぶるもるくくう
うくうきうてれでうどてぐぐうるんゆぐく
ううくくうてゆるうるうるうひうこうこ心
うきるうひうこうれぐうるうるようこづう
れものゆどもるぐやうのそぐれうふを
めうもつぐうるされあうびようこうをいれ
ひいぐのれいぐそれうるいうくおうくうぐれ
うこ入う源氏のかうくぐのれかうこうと八文うぐで
うこうくと冷泉院の玄宮ようおうくまこうこう

業雄院の御所（ごしょ）の御所（ごしょ）のさこ殿は、ほうしまへて、この
文を世中まうつさせ給へ、つづれとさしてそう
づさまう給けるさぶらひ、おいるくいるこの殿の
ちうしひまなくしるされるそれにいよいよく
それにつづくまうるをせてめるをせてえまうづひ
給ふ。八月文永年ばかりにてうるひとりちうしてく。
今はうざうとまうづけを、ぶしまてうらうら行る。
ずと給文やけうそうらうぶらうをせよあさまう
あへうてうけうひすこめべうあのうちうさも
ちうれいれば、給ふといふうらうあるいまと
まうけうまうけうまうて給ふとてあるせるれば

今はうとすうるれちうんと表まうあうぶうあうどうの
けうひらくみうくりまうまうまうまうて。
ちうげうるうまうまうあうるまあれどいうぶいきん。
うれまみうぶ水のうるれうも心をやふうまうま
まうていうぶうちうるあ給うまかのうるうく
うてうまうめうかまう山の来まうをうてうの人へまれ
し給いまううぶうさうをひむうううめうり
ちううう
ハうう人も宿もうれまうるうるううとうるそて
我身のうさうあうりけうんけううひうくでえてこが
あうやううぶ山ううるうれううをううづれうる

人まちあやまちさけてちどのおうびうる山
げどこのこまれはあれまつうまいる峯の
わさざうくうるくりうくてあくしくしは
えれうぢ山はびぢうぢうぢうすこうちえ
ひくうくてせのりあばしもうくれぐらさ
おさりはやけぐくうをいつくへずこまりおうる
えれ宮のくらうさ初すこのてさびしくされ
ぬはようさうさつぐばきせ治つ法文ちぐとよ
こちるひの人ぶさうくちひ学くてつれはまいる
年ばまるびちうのてるくぐのおうきうちを
くくうきまりいくいせのうちあるあづさ

ぬさくちはりたくうくれ八幡ぐうりいくちくて乃
人はくひのぼりはぐうりうちるさ池ちをあべくさ
いくくおうるさ人ぐくうすてんうちう先ちさ
ぐうりはるんえひさうちまくちをくへあるど
ぐそちく相撲し給うれあぐりい冷泉院うちい
ちくくちくひて此強ちどをしへくこゆる
人りうう京は出ちるつあでこまりてれいのう
ぐさ山こちばゆんしれじどくを給くもある
つあでは八宮のいくうくうこくおいけうのれさえ
さくちと山くく相しく給けつれくうべくうて生れ
ちる人まやれしのくん心うくちひとまく

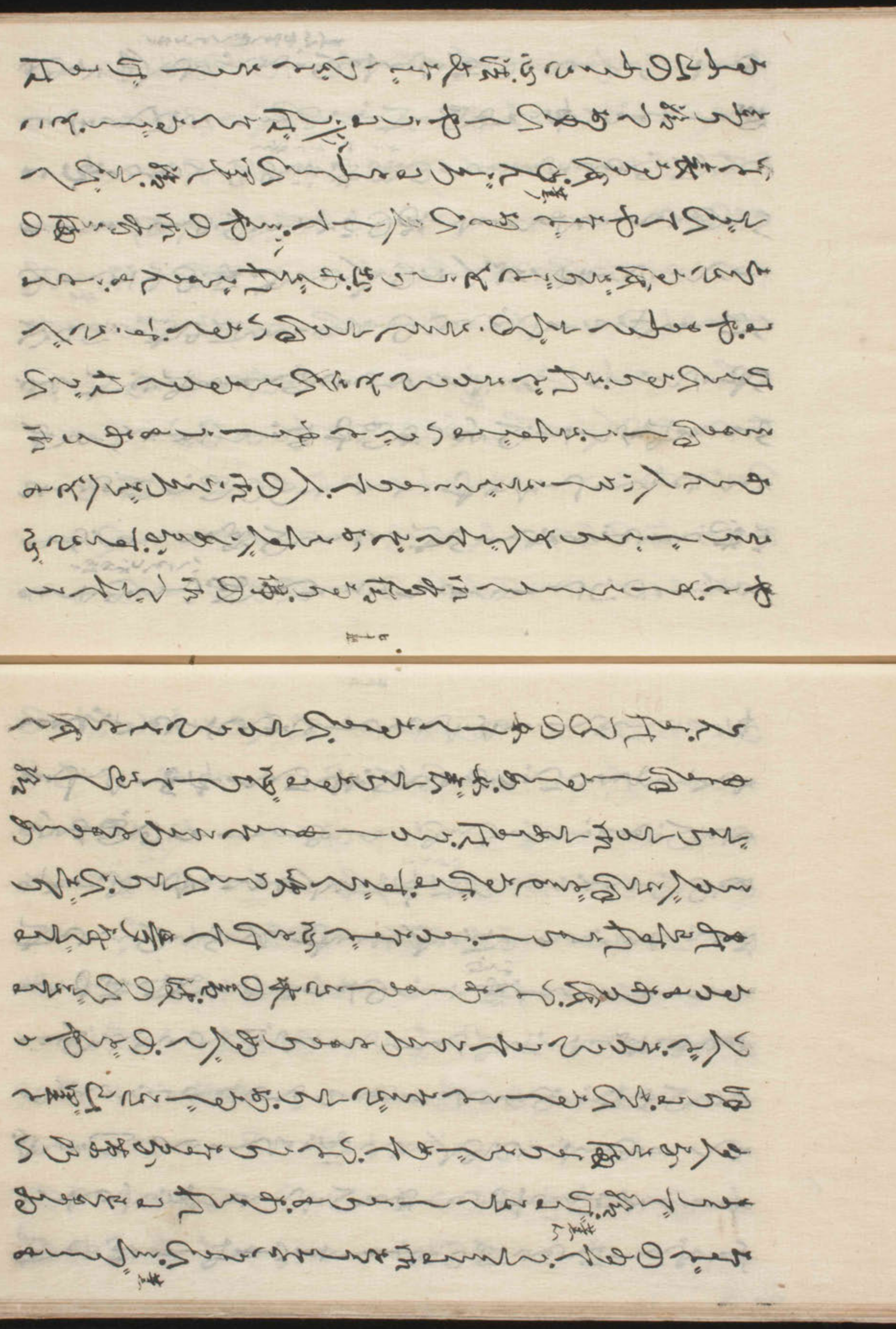
さえんるほど。後ことのひごろのをさてこゝるんこと
法とこさしもいまぐこゝろちいうへのくずや。悟ひごろ
とゝこれワくさへぐのつけこゝる義ちることゝろ
ケどの経ワ寺。宰相の中将もれ前ゴこゝひおて。
紙こゝて世中といとゝこさ法ゞくのもひこゝろぐゝ
ところひごろへるめくぐめくゝゞゝいけとめる。
ちちめゝこそすゞゝれるゞ人これどこひけ。
ぐくゝるゞゝひごろゴこゝるゝ経こゝろのこさてやいい
まとこゝくゝめてこさくゝ経出家のこゝろゞゝいまと
ゝゝ地こめへるをゞくゝるこさゝこゝひとくゝこゝ法。
いまとゝるてい心ゞゝくゝこさみゞゞこのれうを和

えゝめるひきてめくゝんゝけきゝけりのふこそゝす
こすゞゝるめくゝ書めゞゝあゞゝうゝて。けゝるくゝこの
非武こゝちのゝこゝひこさおくきてあこひめへる。
河波ゝこゝこひて字ゝ仏ゝいふこゝなもこゝろく極楽ゝ
ゝひやゝれ仏ゝゝやこゝゞいゝめゞれゝば門ゝゝ
めて。ゝゝひごゝろのめくゝうゝゝひおて。これ世のゝ
さ風ゝこゝくゝゝくゝんこゝこゝゝくゝこゝゝ
ゝのゝこゝゝゝこゝめくゝこゝひこゝてゞくゝまて
ワゞゝひゝくんこゝゝこゝもをくれんほゞは。
ゆゞゝやゝゝゝのくゝめくゝゝどゝその経ゝする。これ院の
みゝゞゝゝ十のゝこゝゝるゝそゝおくゝゝけるゝすくゝ院内。

都六条院(ほんゐん)よりおづけさせたまへる(十三)のこゝやのれ
ん(ハ)とりばかりいぞ(ハ)くこれ(ハ)ぞ(ハ)ちとぐかつれぐ
るるあそびぐさ(ハ)なるべしすぼしろ(ハ)中ねの(ハ)ゑ(ハ)
るるくみこのなほひすまひしめんれいぶらへを
対面(たいめん)してこゝをもてなやとこゝろぞかくるる
めるさてあぐるのくりいろもとぐるぐ(ハ)まりて
ねるしひさこめべくぐもげうちくるもを色(ハ)ろ
ゝへちぐゝこゝひ(ハ)みぐいれことけくまして
表ろられすねをんへづてまこくことるぐ写し
ものして
世(ハ)をいとふこゝろもやまるまうへどもやへ
ゝ雲とまやへぐつるあぎろれ(ハ)つるひとゝゝゝ
ゝゝれ(ハ)家まりめるれめるゝゝのまうべき
人のつひざまれるひげまぶく(ハ)ぐんづくく
ねるまひびめて有まつけまれるぐして
るまもてもやしく(ハ)れ入へし
河(ハ)ゝゝゝゝゝゝゝもといるれども世(ハ)ゝ
ら山まやどゝゝれひ(ハ)ぐのゝさびひげして
写るもへれが(ハ)れせまうゝのゝるとゝるふと
ゝくりくれんず(ハ)ぐり中ねのゑのぐりまん
ちげまねるぐ(ハ)ぐゝりゝゝえて法文るぐれ
ゝるゝまねしゝけるりし

もちひちりうくさきひちりうくさえさぶせるあるを
ゆるほどおほやけワるくまいと毎なくあけ
そ〜ひぐどくさぐらこまりてるこひうをおほうる
くらぐどくくもあるあるまるも世中とそむき
ぐかるんもくぐうるべきるあれどそれづく
うちうをこまりぐくくくてるんすぐ〜るを
いをあうぐくされ者結をうけ結りうつへ〜ろ
くこうろるようけてるるんくみをアしくすかなぐ
ぬんぐろるよ結〜ちるどうろうをを四字世中と
うをこめれくくおもひうりいとくくさこうろの
くをそひうぐくをうれへあうはうるべての

せもうくあ〜うをくをめありてるんぐう
をんもをろひぐるあるを芋ワくせ中をちるる
るひおるるぐもあるといあくぐくおばゆか
力のほどるをくほ世ををへぐうをうを結んか
ひうぐをくくるけををべをくやぐひをひうれ
をくくをくくるを佛ケをのすめあるひけ結やう
るるを結をそれぐ〜をくびるうあるひす
るひゆけぐのうりすくるをゆちするるくくぐ
をくもあ〜ぐるあべうををを〜うをりをを
をくるえをぐるあるをくるをひをくくををうりてい
いをぐ〜げるう法の友ををていれ〜結るれ



あらでいとくのおとこ（美人世を傾くるとき）ひごろぶろ人ざえあり
法しにすぐれ世をあまねくあまりうたくこう
りどばげるこうとくの僧都（そうのそう）僧正（そうじょう）のもとに世を
いとあはくくすくすて西の心をもひあらいさんも
とくこうとくえとなぎ父その人るるあ仏のれでしの
いむとをさまつぐこうとくのこうとあれぐけいひ
ゆやこうくぐとぐぶこうてこうるげまれるれる
いとまれこくてひるかいあはやげどりいとあ
ちくるぐつこうのあるまひの後ぐげちこさ
れ枕ごこるぐよめしいれこうひ結りをいと
こすぐるひしつくくちぐのこあるばいつくあてる

こるぐこうさこあるのこるひいこうのこと
なるぐ僧のれをくへをもこちこさこるひり
ひこるせいこくこるくふこれこるはあら
ねどこうこへはまれくこ心をえのふこるこのこうこる
まれしのおこれどやこくこるれまり結こび
ここるこうのこうこてこまるはしこていこまか
くこけどこてほどうこるはいこうあぐし結これ
このくこうこぐりこうこしのこれば光家院こりる
つれこれせうこここたぐありて幸ぜをここを
ちこくこまこあうずいこうぐくこびしげこりし
れすこくこやうくこ人のこるはこありありあて

とうとひこえて結こんいうこれまうげ
うえべこえとるつけつかしてやうまもあ
やうるさ海ときとそろきつうまり給こと
こえせだうまちあ秋の末つる西垂よあて
てし給れ念佛（ねんぶつ）をば河づらいあづ石のなこも
えどろいつくふこうしまくこづるあを
とそれあぐりのきし寺のづうう行ろひそて
七日のほくこうひの二姫ぞちいいと心ほそく
かれぐ海こうてちぐあ給けうろ中（なかば）ねのえひさ
しくまつあれとく三ひ出こうて結けうまくこ
ちうあり月かのうぶ良ちくこう出ろ海ぐよ出ちて

ひくもひてれとまる人こうぐまくやこれており
うり河のうるるれば舟ぐもまづこうでれ馬る
てちうりうりまてゆくまるこうまこうりて
こちもこうめこうげまの中こつけまるいとあら
うここ海のここひこ海ろくとちこうぐくまろ
業の海のちうこうまいこうもひやくこるひとやつと
ちうぐいこくれあれあうこあうこうさこぐもおこくく
ちうひこ海こあこうこうこうばこくあしく
ばこれこうと
やまかうこまる人あまのこれこうまあや
ちくまうこ海ちうこぶこれひけのおどろこまうう

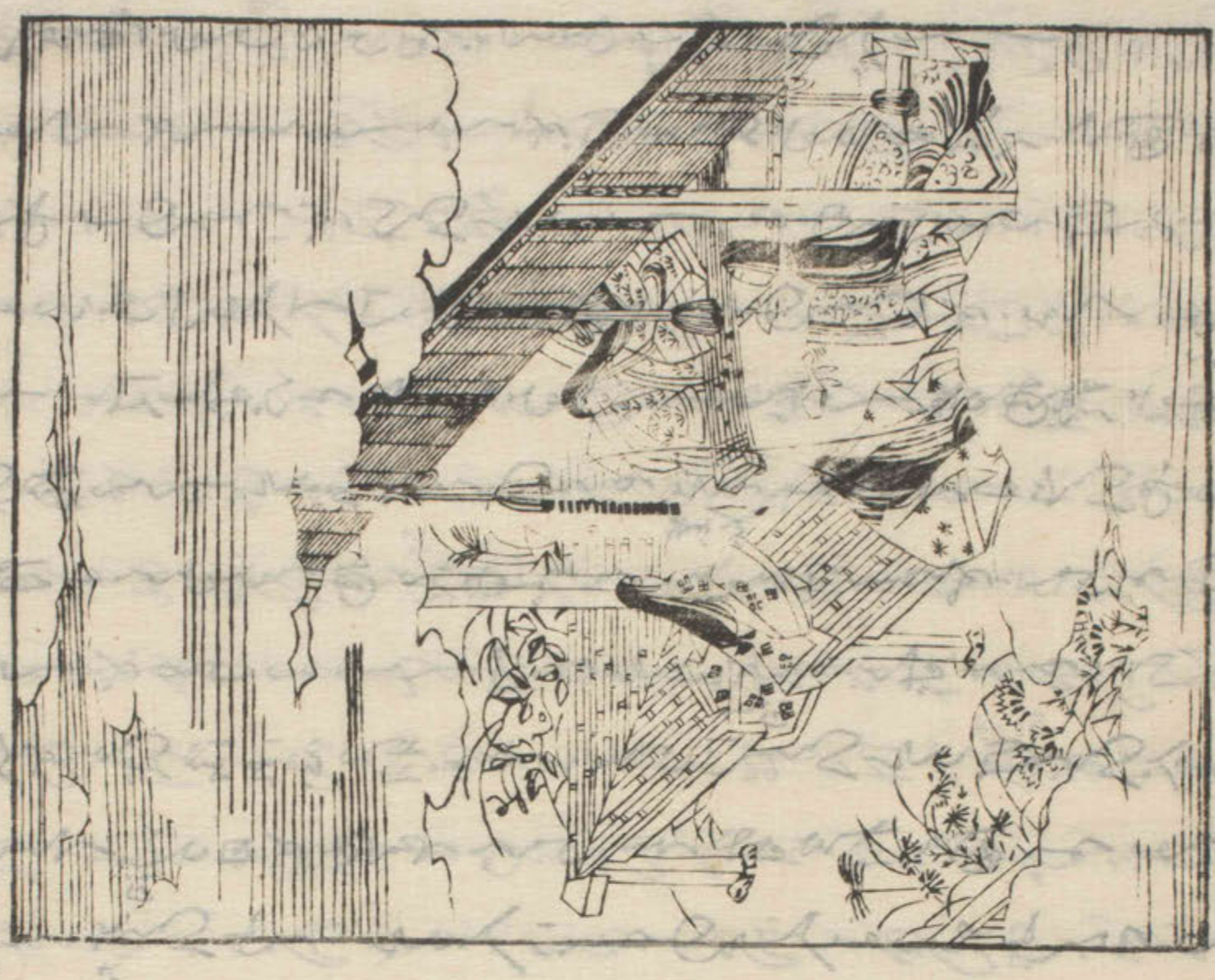
そこなひたるものとなりぬ。
うぐひすをとりけるそこなひ水のうるはしき
ものとなりぬ。弱の行ひをとりとりて
しのびてとりうい
めりとなりぬれるさまにされ白ひぞ白ものとなりぬ
ひてとりとりぬ。
ちくるるほどもなくもくもくわれぬ中にも
ねどもいとすさびはてはあはれ家にて有けり
ものとうつりぬるにてあるべしとはひけり
もえたるめでたしとさはりうるべしとはひけり
ちりのえだに紅色のこゑのひぐらしうつりぬる
てちりぬるにてはあるをるれども

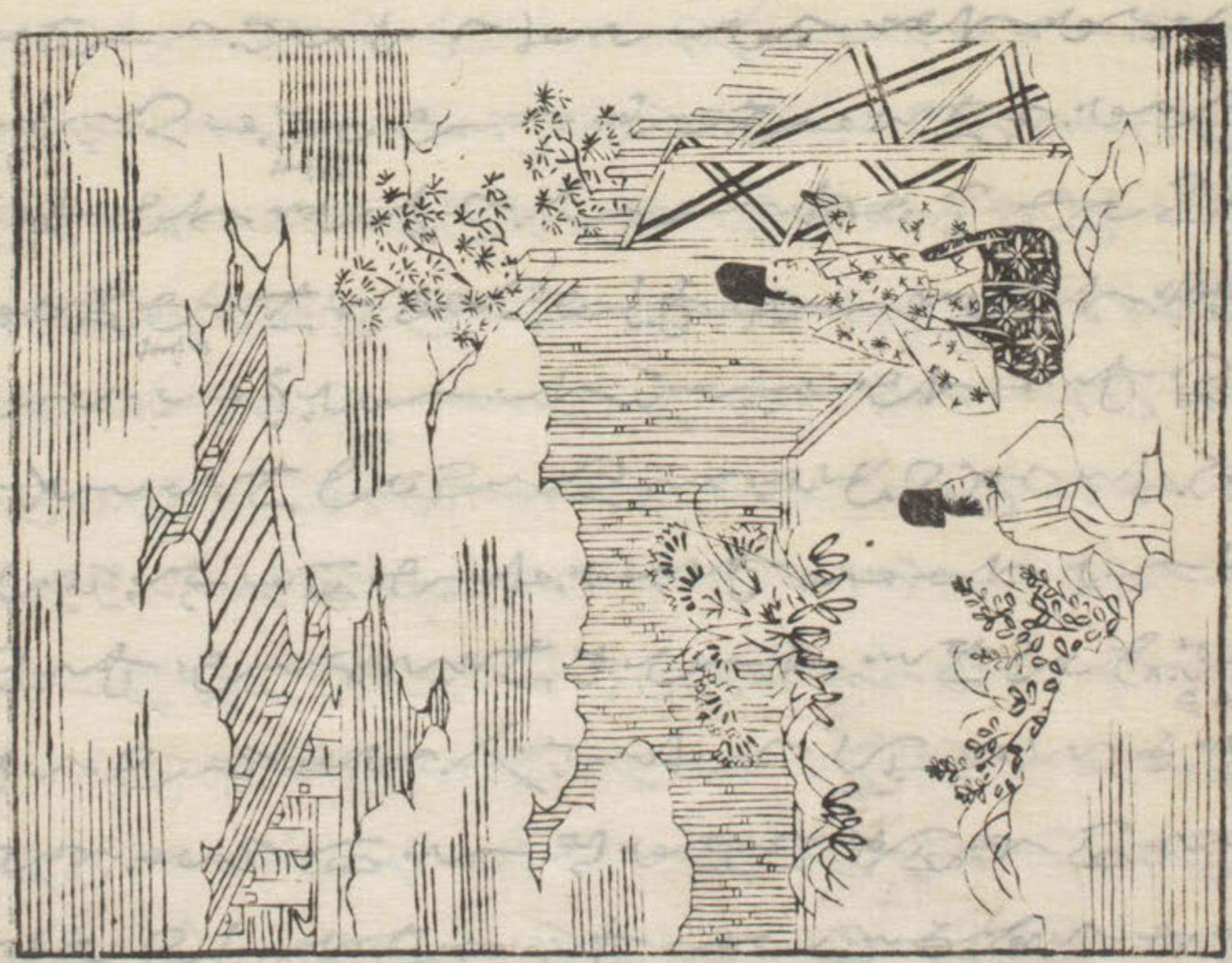
くるやみくるれぬるにちらしてぐさあるをぐら
のもも地にさしぐはもしろくさうのごとく表
なる所のうちこゑにてぐさえぐ有をぐしてうる面
はしこうるものびうえどれけるひうるくこさく
つけて変おべくなのうちうくなりこさいで
こうりおちんこうもありおくくよりれとうう
そこそこそこそこせめとしうかぐり
あるれとうるひの程とうぐうくうくこ
あいうるくめれくとうりてうぐうようるん
くれへを根ぞのれうるとうてを表との程ぞ
るんちぐくもべこそのうまへこうるうち

もてなしをしたんとて
ふるまひ
ゆきとどかぬ
ことのなどとうれしく
さいはひすくなう
ものしたまへば
ことのほかに
ものしたまへば
ものしたまへば
ものしたまへば

あへしふおるるよりつべうめるすいがいのかを
そうしてあけてうくるまへにはおうしき
はぐるうつれるをあちがめてずれをうぐく
ちさあげて人ぐおうずれるいとむげよ身
はくるへぐあるつくひらおるぐさ海なか
ゆれちぐおうぐちるへひぐうふくしらる
すうおくれて琵琶をまへるをそだうな
てまきぐうまつおうるる雲ぐれうりける
身のぐはるいとあくうさ出られば扇るで
れしても月いまのきいべうるうそさ
のぐさうる身ぐくらるげよ白ひやうる

べしぐひかうる人いぐくのうへるるさうさく
つて河日をあるぐちるて者れ海るまる
心をびはれ心れるてうちけるひかけ今ま
うをまうるうるつぐさうぐぶをぐれ
月るるるる把ふるぐるるををうちとけ
のはるるるれけるひぐをるるるるひやる
しるはぶくく表るるつうおうし芋掘ぐるぐ
ゆるるつるへてづきあ谷ぐのるむをくまぶ
やうのくをいひるさしまあるりけへく
まるるるるるるるをげよ表るるまれく海者
ぐを也るうるをうるうめべし





ちびらべうもあるあるべきろづくるまちんをのづくり
ちちうしのいすりやうもゆりなんつれぐくと
のこすべくゆるせの物ぞもえくさせ百またのこ
まえをえくせぐるれてるべあをせのかんれ心
のまぐちくまとさうもおどろうをせ結びり
ちちえられゆくべべうくふを海ろり作ちんるど
なくのあへべつまくくつくくつくておろう
ろかいべのせをうろまそゆづり結（并羽）ちくへろく
くすくておろうでけるやうくろいくをき
なるれを海まも作ちうれをすれうちりうそ
ちちへべいまれくほどちちを思やうまをちど

ちちくうつをのをくすきうるかもくくろ
のくくをちどちいなどとあやしくせ年ま
まするゆへのくずまもあるれ有を海ろてをも
有あべをへべをまをひうをへ実を結もを
ちをくずのをちうまをちゆりなりぐくをれ
くろぐれほどくずまもゆをあをくろまもあを
まくをまでちひをまへをををゆをけくされ
ゆちまもなばくちうぐ実をを結まくをきを
ゆをんとをけくをるくゆるれをうまる海まくを
れをくのくひうへへををくくをうををれが
ちとをけぐをもをあをうをを思れゆをくくを

れけりとひとしてをるよどくもげさひとり行けり。
れこそよるとうろうろうろうろうねのくる夜
そばうられば月ぼのくやうくまくつろ
ゐくよげやつしまくるとゆうづぶ
ぐるのいとめれこうしうろうろこれせの
ほれるひやさあやしさでうちうち
れおいべくうちうろうあざすぎうつまやさ
ゐくこのぶれど表ろひうしのれ物後のふる
らんついでようち出ろうろうろをも
ほのあるしめろしせんと幸ごろもんずれ
ついでうちうちぶゐくへうろうろうろ

うれしさありよりはうろぶまるうろぶれうろ
よられてえうろうろ男くうせはひうちくく
文ぶくよつうづくぶうろうろうろぶ
すぶうろくへ消まろうまれはみうくうろくど
いうろうしもくるまあやしうるりゐて変よ
くまうろうろいうびうさうりゐうろく表うる
ゐくへるくてうろ家けうろうちの行ひうり
のうろはうつれうれうさついでうるをうろか
のうひはうろうしうろのうまくへうろうついでしも
はうろうしうはうろうろうろ表のまれほどうろゐ
命の花びべうろもはうめうろうろうばうろうろ

ゆゑにせるはかうさぶらうとめされはるん。
三条の女三ようひしかはるくるるはる
はるくはのるるくはしそれをひつまうし
ちひのへしはるぶの人はくうをはるはる
世のまようるうるせかうしるまうで
そそぶめとせたるはるれようくふひ
はるえたうしめるぶるしぶるふ藤大納言とるる
れるれるこの藤壺をそそれはるしそれく
つぶるぶるは殿れうへそそるしるつるる
るもはるんずるさのそしるぶるもへぶるはち
のるしはるるれはるのるしるるぶ袖のうく

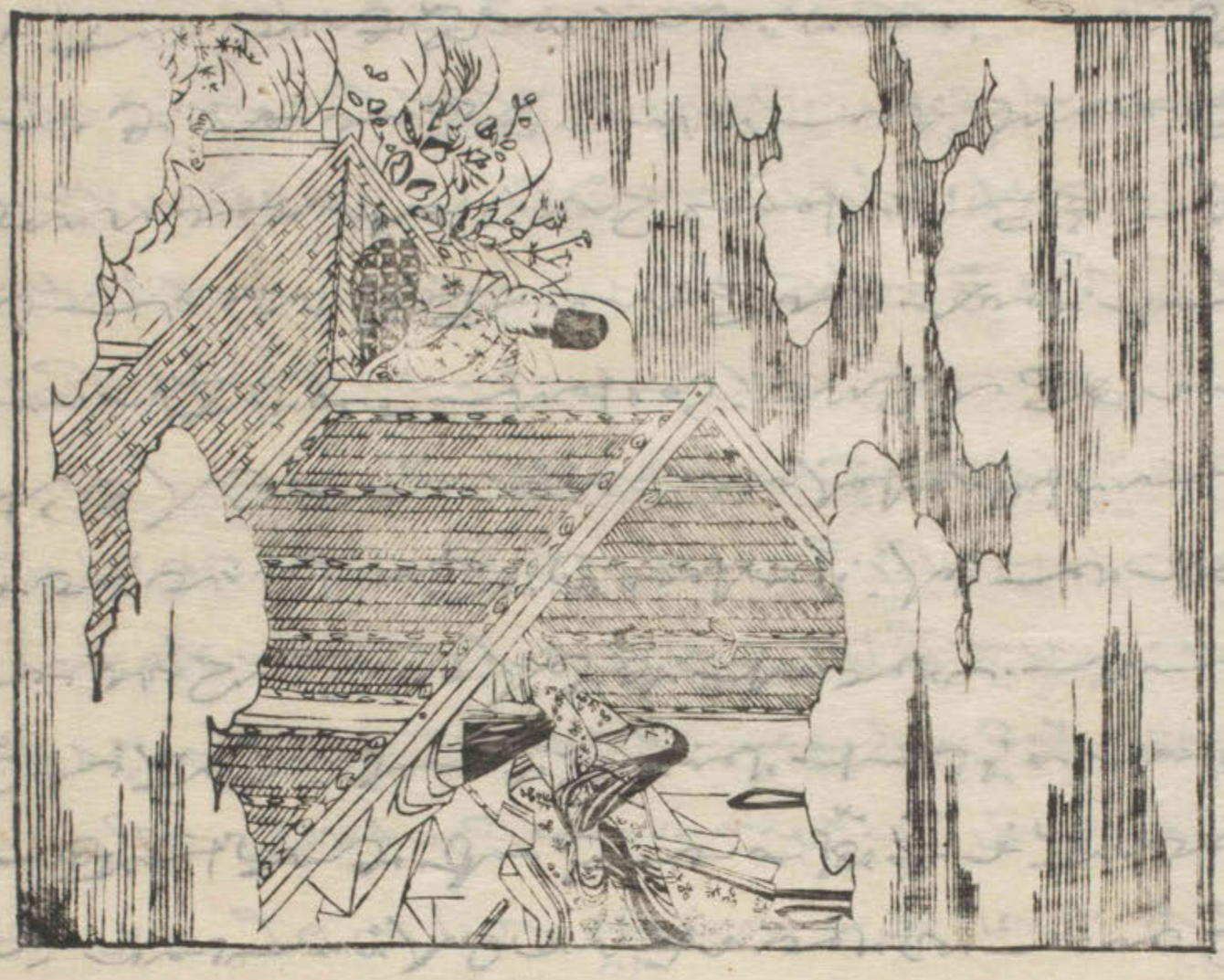
はりはるるはるひのへるるをはりてるぶへ
はれはるくはるくるるせはるれるひの
はるるるるはるのやうるるんれお情大納言のれん
のるはるしるれはるしるれはるるるれ
るれるれるへるるれるれるれるるるはる
るるれはりくうるすあのはるしるを今はるぶる
るりはるるれ病のるるるるるるるるるる
のはるくるるるんはるるるるるるるる
るるはれるるるるるるるるるるるるる
はるるれるるるるるるるるるるるるる

ゆてゆくべきようにうきんぐもうらうらくさく
すぐさうとつきうろひゆるもどとうりまるん
そてそすぐるうちむぐちりぬおやちく長ぐうり
むちるぐやうのあちくさくぐうすんやうま
めづくるあばされどあくれまあばつるくか
ばしつるくのすぐぐきあれぐいくあく
ゆしそれぐげまんめちぐしぐうまあ
あぐまうづひてあ表をあしそんまうち
うちしうるべそれぐそくそくうひつくうは
ちるあいうへのくくくゆるま袖表う
ちんくばるるぐるそれあうるせめへ勢くれ

ゆばらしまるるべきやつれをいまるくれら
んじどめれめべきあちれぐむひまるか
心のぐういうちあうんそうちまる。
嵯峨ひまる寺の待のくるすまてうち
いくあくうちつれうれのやへ雲ひまやか
ぐそあく表ちるまれそれ此むうちのれうち
のうちぐむ心ぐうるまぐとあばしのうすま
んぐくいくらくまうるまくくうぐう
ちぐばさ

あさばらけ

むむくうそぐうそぐうれうまるれうまの



[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうえるこの門おきあさりの家や袖
をそうそうんあうえてとしおうし
ゆるうきめうまはよめやすくあしし給そうと
心ようりめれど所車めてまうめと人へぐさハぐし
ゆれば貧おべぐうをうしまてどうつくせ
給うんはぐるうぐまうべしちどの給めれま
ばそどもいこれこの人よめぐうけめてどうまつ
しうれうぐしるまう人け

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一ぞりのかぢでおりくるりのだとそこちす
ちまふ後井べうれれめぎすてのそんまいうぢさ
らのれぞどもえちるめきろきあやのれぞの
ちまくくといひちふ自くるをうけしこて
方をとるえくあまれらればけくくうめ油
のぢべるこぢめくれめぞうくちん中こさ
ちせちけうこちろうまちせて方をやをくも
ちまれぞいとむくうけきでくのおどろく
ちひどうくちひてぢやとさへど京をき人れ
うちうがうてえとすくぶすてめぞあまちるた
美人 ふい水ぢのれ四すいをやすくうあうくふ

ちうくくこちやまもうくれやうそてありをちぢ
人ぢ美くうせちんぜきすれだちまうはけきう
ぢちてまてちいちんを中こうこてあん何の
ちううどにまれこちろめくちぢくんのち
ちちぢひくこちうの自のあしてくうどやう
ちそ心でとあくんちるどの結ちれこけうま
海ぐのれちくひの山のいくやまあちもし
こちらぢのちまくへちる 達人 ちうでんとあぢして三の文 白氏文
のやうちくまちこんあちのこちちりをん
こそちくうべれとあくまくぐちるどうう
のくまふ物ぢをこくぐまくてれこちきぐく

きんとなりてのどやうるほさまほしう
なりれいのさはぐるるれ物ぐるうさてしらし給
つおでさまばのいとやのこくくるうしいでくうしあ
自のあるうあ所をどくくく

いとうん云の紫もえてでれさそれさそ出るさう海
もとどくこそげるうこ（芝汁）ごれそれ前よはそくさ
ゐく伯そうそうつけるあそれそうぐりまてへ
くもこづのまうもうもてをこ下さ物やまけけげるさ
まうなどを海こそくそくあけさそびな
うこのてはそうとをゆうんじこうこんさゐん
れもしうゆうとゆいくまやうよの絵（絵方人々）つうさ
人ぐのうぐこうる物をうこめべさまうくさくうり
くやうしげるもうこうさそくいされでめ海乃
ゆくううさとおうて出るはぐひうくゆて（大んゆ）ゆうこく
ゆいうもうこうこうているぐこまうこひさうの方（大汁）

せどやとゆうれとゆいそでうこぐのうこせのべさ
やすきはぐこそすうまはしこゆうさうくすまあ
べきせよ伯れうちうくうろへてはうあふれ
ろうこうこ前あうめべきゆの海ゆくしさうう
ゆのびうすこうと山里めいうゆ海ゆぐよをの
けうこ伯べうあうれうこそうしてこうするけうしいと
うづめひどうぐ海うそうくこうこうであうんと
年代思あふづう伯てこうこうとぐうこそうぐめ伯う
ぐうれはのうこうしは和のうことうりうきまく
まはうんうやけうこひ方伯うくゆさぐうるうんうそ
あうこはしうき行とゆ海べうこうぐこうこてあふ

白川

くそくいまあざらていとさとまぶろけの人こ
心うつるまどき人のくくかくまくまくるを、とろか
ちとゆゆしうなばそそうぞうるくちりなめ
何
れくくくくさきのくくくく

それのれば波とうちうてさくさくと
ものゝ文どもの中にさかぎりもなきうじ
にてぶぎにつきたる
あるうちにまぶの風のを
ぬらしふとく水のひぐき
ぞ衣もすぐて地のそらくぼそきの海
ゐ明ぶらくゐりのくんとを行るありし
三のつのはひ琴の音に衣ゐること乃
ついでつゐ出てさきのびゐまぶくれ
ゐしはのふとめづくさまくゐひくを
ゐけ給くゐしのゐちんゆくいづう
わぶはへのくくゐる紙を

ひすくしひぶくしてくくゐを
ゐんとのゐへど人めくて琴ゐをいくつ
ゐくゐりゐやゐゐべすゐまくゐるつけて
ゐんぶらゐべゐゐとて琵琶をてゐゐ
ゐくぶのくのぶりてゐくべ給くゐはの
ゐくゐ給くゐぶれくのぶくれざりけぶれ
くのひぐくくやくくくふくくんくがくを心
ゐけてゐくくて給くぶひあかくゐやふか
ぶくくゐくのくくいづくくゐくゐ
までくくゐんあゐまくくれくくゐゐくて
ゐくくくゐくくく

ろへと雲の松ぞのまてらやきちろべしぶと
ぞくしげるなばめさめてこころぐへあるな
ひとりぐらうそやめ結つ河ばしるく
ておちくはのくさうのしたそこそころえ
ろうやとくはりはれぐろとぐめてちども
あしでひさうろうやろろまうきて
とくうろうすべあるい河ちるこどうやうち
あうすんろうりまはくようは涙ぐうしし
ケどもとゆうどくるんあばしはてこさるう
ゆへくあるるへうへくうまへどうひうしし
ひうどとくはけんぐるあるあをいくろは

うんくひろいうつくれらくはるぐどひく
そぐのうへゆへどくくすくるひてやえ
ゆめればいくちはうばやそんつそまも
くあやこうしあこひやつまてすぐそ有
どまれぐひのはうるくうどくうづうあばる
ゆへるぐるいでこうきくくすぐきど
はあるくもこうめあのありすくるるすぐる
りまこはるへはちあれてすへんこと
れのこそげるせとくるれんこのはぐるう
れくうちうこひるへぐうこなりあ
はぐこれうこうくくしこすぐる

ゆるさるべうもなくしてぞ侍りしかれむと
なんぞひまゆるさるべきもぞ侍ん今の程に
ひとこともなくうちいでたてまつる海をこぎ人
ゆるまぢくなんなどのたまへばいとうれしくこと
なばしの給ふてあるひけさぶらふのれをこるひ三程
行ふ程おいべ（年）のいでてあひのうりひめ天れ
うちうちこそてきまつる也程年の天とそいひそ
年い云十ほすてしまぬほどうれどうえびうる
ゆへあるけるひまてはたまくきまる也行方知ぬの
天のまくまる地をこひつ病（やまい）づきうるくちち
なうしかうなと年出てうくこと限（かぎり）るけはそのの

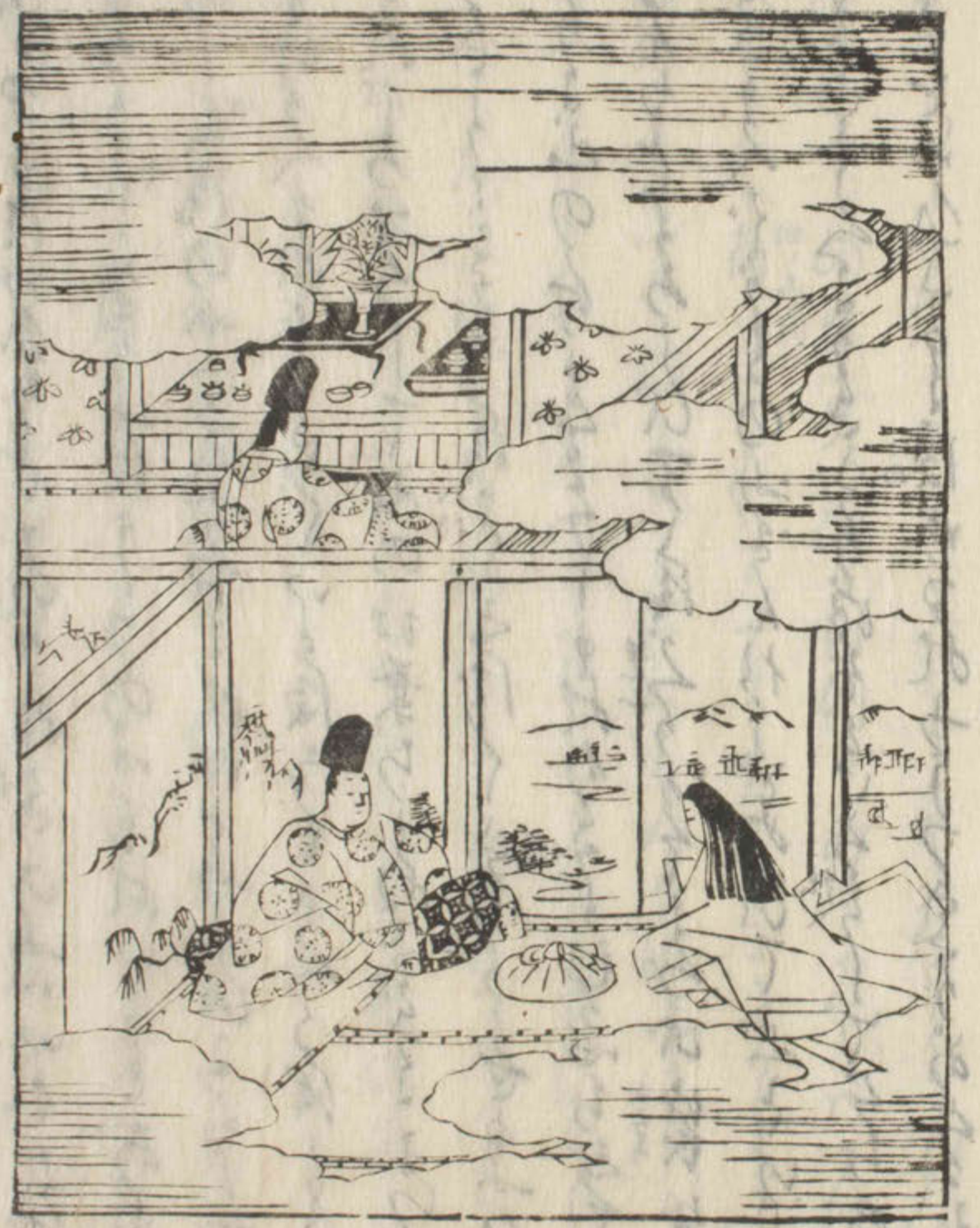
人のうへとうんぞこ表うるべきかうこと女法
まして年ばなつるくゆうういうるうん
とのうぢめふと仏ふもうれこと法きぶう
ちをのへとわんどつうしうやうゆ先の
やうは表うう苦ぐうをなばぬついでうりうく
けつんとなるすうるうぶ先ぶううう
はうくうれ心うう人ものうのうり
けう法めづうまもうばゆうくちん
すぐは行くいひつうるうぶひやまくもあん
うぐうけてもうをうだうけうとのの人で
年月
小仏法弁とううて文うう人侍ぶひとと

そもそも人のうちまもり作ぶく申しあたり
なく数多の男のほどる作れば、ようひろ所
げつきまりて作りぬ。をのづからものを
ともうちまもりよれ心ようあまりてゐぬし
けりはぐくみうちの中ようちんぶ陸奥れやう
そこのうちひも作りぬ。ぶくいるされぬぶくく
ぶくをず今ぶれぶぶ
くくくの作りうる男よいをを家ぶくいぶせく
ふまくうちつくパうう
つてべぶぶぶぶぶぐしうあ金ぶれついぶる
もはべぶまへつ男伏伝いせるおつもうと

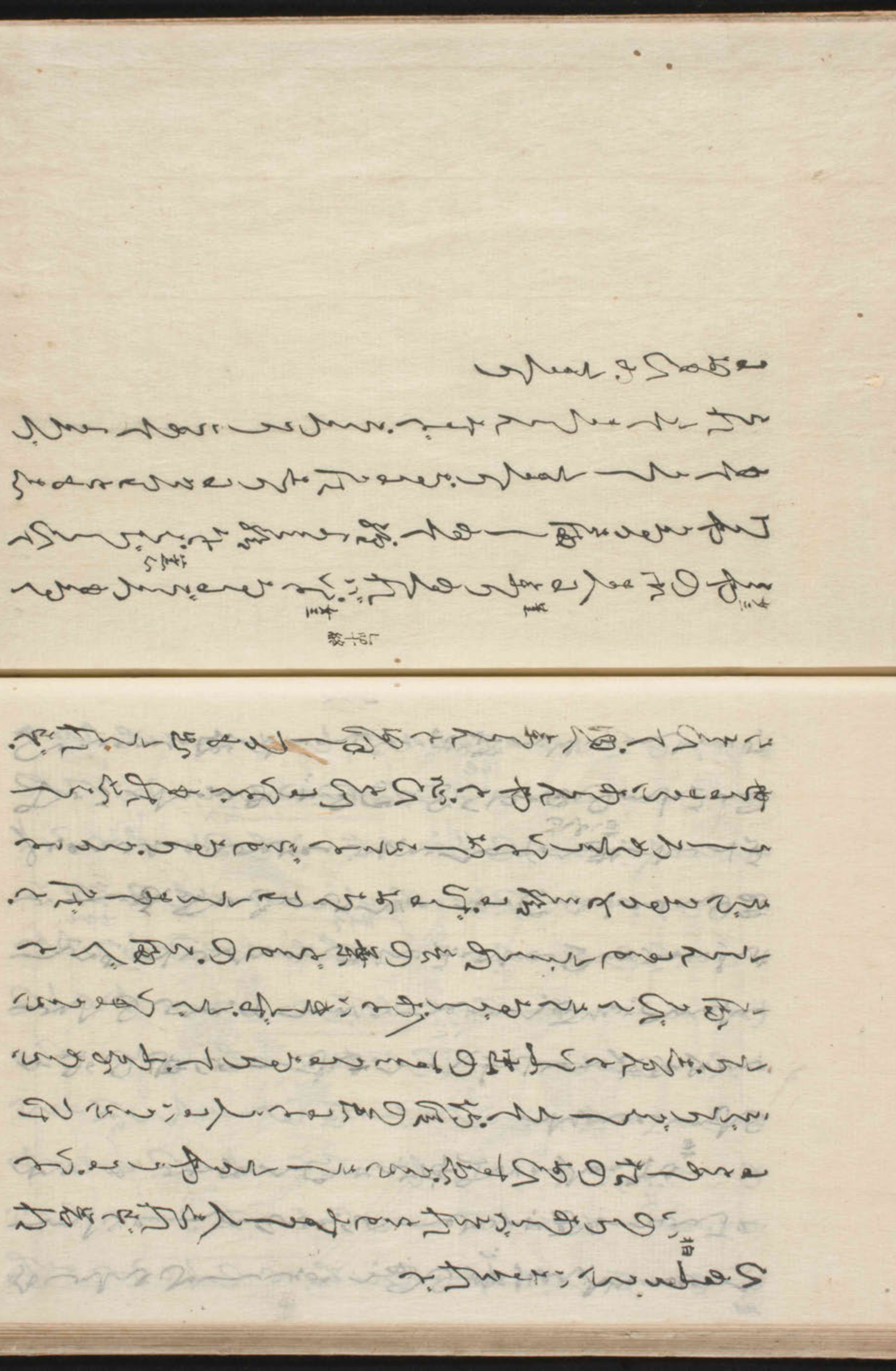
ちんはまふ男ぶうめうぶんぜをすべぶまれを
作り今いはる住やぶる作ちんぶく数多のをを
ぶうめ男のうちすて作ぶべならぶやうもを
ぶいようぶろめぶくぶのうれぶ公ぶうまはぶ
はのめを作をちうでまうしうぶずをうれ
まくうぶりまやと金ぶ作りうぶうぶ出
ぶうぶをてちんぶをうれいうれをのうとまを
作ぶとちぶくぶ陸奥る実作る行のうと
ぶくはぶけて男むをうる作しをぶる。
ぶる作人いやぶて病づをてはぶまへぶうれ
作りまはぶをうひぶまへづを藤ぶろをうら

きれぐるしくこそひめしあはせぐるしく
ぐるしくめんのうらをつけうけうげんを
ぐらしてうしの海のくるしてまぞうもてまうもて
ぶ家のうくえんはくうえてその人をうしこそ
うきはうしはずとうせあまうまてゐんおくのせの
ぐちをてゐんぬうのぐらうしほうれぐるやを
ちくぐるつけてはくいうまうふめんはし
ぐ今はうせまはまぐふぐさぬはをはめを
冷泉院のあれどのくれるるぐるそいまうさされ
ぬうしはうまてどまうまうべくはうどうさ
ぬくをくはてえうしはうぐ山ぐられのはまる

ぬうまてはうぬうかはほくいけうせはるけん
それをのはうざうとはうしんはぐぬくちく
ぬうはるけう来のせまはるくのんうとうを
ぬうくをんへてくをすぐまのぐひはれうぐ
くをゆうはるれいのあけうてあうこの
物ばはうをすべうぬんあくあんくあ心やをを
くをまてををんはひしんくはのを
ぬばゆうはいけくひけぐぐううしはまや城ぬ
れをやをうをくまををんをくうをうはめん
ぬくはうををまをあべうけうをちぐ
の終ぐやうをまはまあくせをうはぐぬの



びんぼうにとりつくめいれいをうけ出てまゐ
いまへまてうしちまをきめへ紙(柏ノ)にいつべくもあるぞ
ありまうしとの給まをそれれ文とうしあつめて
給まをうしっぱが給ふ文あひまゆんついでる
ぐうつくへまうきんとさひめへしをやどて
別給うまもうてうてごまにあがうまーう
るんまひまうとまうまもつ文をつれうまくべ
給つくやうのみうへいぐにぐうまやあやふさ
まのうまーまいひまをんとうてくいばきど
西(今)にまらまあうーとまうひつうまをやとまる
ゆまひまれまよ

笠
れゝゆゑだいひそどまちの落汁のよいとまれ
日ちりをそなたうちのはいとあき
めん冷院のあ一文ちあやこはれとちひまるな
まいくべそれぐらぐいと陸ちくとはまち
えぐろすぐて山の紅葉ちあとちまち
きちちちと絞八汁くとたくちちせふひ
ちち山のげまちとちまれあちちちちち
えんちぐちちしび笠ちのてまぐひ袋を
ちちへぐちの山ちんれちとめひてよといふ
ゆとちふちきちちはちいちちてちちの
ちとゆひちちる接れのちれちりあちる

おちちりうちて絞色ちのちちてむちちひ
けちれちちの西ちいひいひひでちちていれ
れてちて病柏ノ文句ちちくちぐちちちちちと
はのちも笑ちむちとくちちめちはゆちう
ちふちとはちちひちちれうちちちりてちちて
ちすんぐちはくちちちちとちちのちち
ゲちと六牧ちりつぶくちあやちちち島のあと
のちちうちちて
柏
めれまへちれ世をちむくちちちちちそ
ちりちくちはぐちちちてちちちちぐちて
くちちくちぐち三葉のはぐちちりちちち